教育支援

実施者

≪教　員≫　千葉大学　特任専門員 / 地域コーディネーター 阿部 厚司

≪学　生≫　千葉大学 大学院 融合理工学府先進理化学専攻生物学コース 機能生態学研究室　博士1年 奥山 登啓

≪協働パートナー≫【行　政】南房総市役所 市民課　市民協働グループ　【企業等】ヤマナハウス
【個　人】ヤマナハウス南房総三芳のシェア里山 代表 永森 昌志，副代表 沖 浩志，マネージャー 溝口 耕一

1. 背景・目的

日本では『科学的思考力』の育成が不十分であるとの指摘が多くある。科学的思考力とは，科学的知識に基づいて論理的な判断を行い，それを実生活に活かす能力を指す。生成 AI が劇的に進化している現代社会において，自ら考え判断する力は必要不可欠である。こうした教育課題に取り組む上で，私は生物の教員として教育実習で得た経験を基に，現在の学校教育から次の 2 つの問題点を指摘したい。1 つは，「暗記中心の学習スタイルにより，学習が机の上に固体化されてしまっている」という点である。中等教育で扱う内容はますます高度化しており，大学受験に特化した学習は，生徒が実際に体験したり観察したりする機会を奪っている。こうした現状により，生活に身近であるはずの生物学は，日常生活からかけ離れた小難しい学問へと成り下がってしまった。もう1つは，「原体験の機会が，育った地域や家庭の影響で平等に提供されていない」という問題である。大学の同級生の中で生物学を専攻している友人たちの多くは，幼少期に自然と触れ合うような刺激的な体験をしており，その体験が学びの礎となっていることが伺える。

これらの背景を踏まえ，私は南房総市の豊かな自然に注目した。この地域は首都圏に隣接していながら，多様な動植物が生息しており，都会の学生にとっても地域の学生にとっても理想的な学びのフィールドといえる。また，現役の大学生が直接生徒を指導することによって，最前線の研究や専門的な知識に触れられるだけでなく，生徒自らがその後の学びをさらに深めていくきっかけを提供できると考えた。南房総市という恵まれた自然環境と，現役大学生による指導を組み合わせることによって，他にはないユニークな学習プログラムを打ち出すことができると考えた。最終的には，南房総市の事例を基に，千葉県内，さらには全国の地域でこのような取り組みが広がることを目指したい。

2. 実施内容

場所：ヤマナハウス

概要：月例イベントへの参加 (6/22, 9/7, 11/10, 2/23)

自由研究プログラム 2024 の実施 (11/2-3)

1）月例イベントへの参加

ヤマナハウスで毎月2回開催されている月例イベントにヤマナメンバーの一員として参加した。DIY 班やジビエ班など作業に応じて複数の班に分かれており，活動を通じて自身の得意を活かすことも，習得したい技術を新たに学ぶこともできる。私は生物班を担当しており，裏山の動植物を調べてまとめる作業や，ヤマナハウスを訪問した一般の方がアクセスしやすいよう裏山を整備する作業に取り組んだ。今年は台風や大雨の影響もあり，山頂への階段や道が崩れてしまうことが多く，その度にヤマナメンバーの方々とスコップ片手に裏山に入り，汗を流した。こうした自然との関わり合いの中で交流を深め，日常生活での疲れや悩みを発散することができたことは，大学生活では決して味わうことのできない大変有意義な経験だったと振り返る。

2）自由研究プログラムの実施

南房総市を拠点に4年間に渡って企画を練ってきた自由研究プログラムを，ついにヤマナハウスで実施することができた。本プログラムは，私が代表を務める「千葉大 NESO」が主催するワークショップで，1泊2日の研究合宿を通じて生徒の科学的思考力を養うことを目的にしたプログラムである。宿泊を伴う有償のプログラムということもあり，集客には不安があったが，SNS で広告を発信したところあっという間に定員に達し，小学3年生～中学1年生までの生徒8名と，現役の大学生・大学院生スタッフ7名の，総勢 15 名でプログラムを実施した。事前にオンライン説明会やアンケート調査を行い，合宿当日は生徒の興味に応じて3つの班に分かれて研究を進めた。合宿最終日には保護者の方をお招きし，2日間の研究成果を報告する発表会も実施した。小中学生の研究とは思えないほどにクオリティーの高い研究内容と，それを生き生きと発表する生徒の姿，そして全力でサポートする大学生スタッフの姿が印象的だった。大学生×小中学生という関係性が，非常に多くの可能性を秘めていることに気付かされた。後のアンケートでは，保護者と生徒，そしてスタッフともに高い評価を得ており，早くも第二弾を期待する声を多数いただいている。本プログラムの有効性を社会に示すことができた素晴らしい企画だったと振り返る。

1 自由研究プログラム 2024　2 プログラムの様子　3 裏山での昆虫採集　4 大学生と小中学生の交流

域学協働の工夫！

★駅から活動拠点までの送迎をヤマナメンバーの方々に依頼していたが，移動の効率が上がり作業時間が長く確保できただけでなく，車内でのコミュニケーションを通して関係をより深めることができた。

★ヤマナハウスと千葉大 NESO という二つの異なるコミュニティーに所属し，それぞれの立場から教育のニーズやプログラムの実現可能性などを検討することができた。

3. 成果と課題

(1) 地域貢献面

ヤマナハウスを訪れた方々を対象に里山のガイドを行い，生物学的な視点から地域の魅力を分かりやすく発信することができた。また，自由研究プログラムの参加者の多くは県外から訪れており，宿泊や観光を通じて地域経済にも一定の貢献ができたと感じている。今後は，自由研究プログラムとセットで保護者向けのツアーを企画し，より幅広い層に地域の魅力を伝えることで，さらなる地域創生を目指していきたい。

(2) 教育・研究面

自由研究プログラムでは，科学的思考力の育成が不十分であるという教育課題に目を向け，質の高い体験イベントを提供し高い評価を得ることができた。一方で，興味や関心が全くことなる生徒を相手に 2 日間で研究を仕上げる上では，スタッフの高い熟練度が必要不可欠であり，卒業してしまったスタッフの穴をいかに埋めるかという，組織循環の仕組み作りが直近の課題といえる。

4. 今後の展開

今年度は，ヤマナメンバーの一員として積極的に活動に参加するとともに，4年間に渡って培ったコミュニティーや経験を活かし，独自の研究プログラムをヤマナハウスで実現することができた。本プログラムをきっかけに，地域団体からコラボ企画の打診を頂いたり，地域新聞に取り上げられるなど社会的に強いインパクトを示すことが出来た。今後はプログラムを改良して実施するとともに，日帰りプログラムの実施や他団体，他大学との連携なども視野に入れて活動していきたい。

＊表彰・マスコミ掲載など

「外房経済新聞」 掲載　https://sotobo.keizai.biz/headline/417/
「千葉大 NESO Note 記事【公式】」 掲載　https://note.com/chibaneso
「千葉大 NESO Homepage【公式】」 掲載　https://chibaneso.com/
「千葉県｜令和 5 年度 若者が主役の環境保全活動応援事業」 掲載
https://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/kankyougakushuu/wakamono/2023/r5wakamonooen.html